



サプリメントに対する眼科医の意見

慶應義塾大学 医学部眼科学教室 小沢 洋子

最近、加齢黄斑変性におけるサプリメントによる進行予防効果に関する大型臨床研究が米国で行われた。本疾患には治療法はあるものの、一度罹患すると程度の差はあっても不可逆な組織変化による視機能障害の後遺症をきたす可能性が高い。そこで予防に対する関心が高いのである。これまで眼科医は、科学的実証のない物質に関しては基本的に否定的な考え方を持ってきた。その考えは今でも変わらないが、一部のサプリメントに関しては、動物実験および臨床試験により、その生理活性が示されつつあることを受け、これまでよりは受け入れる可能性が議論されるようになってきた。本講演では、現時点の眼科医のサプリメントに対する考え方の動向を述べる。